

§ 専門批評 §

生徒氏名 _____ ○○○○ _____

課題名 _____ 臨床心理学問題集 第5回 _____

《概評》

*基礎力	<input type="checkbox"/> A	<input type="checkbox"/> B	<input type="checkbox"/> C	<input type="checkbox"/> D
*習得力	<input type="checkbox"/> A	<input checked="" type="checkbox"/> B	<input type="checkbox"/> C	<input type="checkbox"/> D
*考察力	<input type="checkbox"/> A	<input checked="" type="checkbox"/> B	<input type="checkbox"/> C	<input type="checkbox"/> D
*表現力	<input checked="" type="checkbox"/> A	<input type="checkbox"/> B	<input type="checkbox"/> C	<input type="checkbox"/> D

《総合評価》

A B C D

《講評》 よく出来ています。 今回のところ、とても煩雑ですね。

詳しくは本文中の赤を参照すると共に、解答例をご覧ください。

神経症は、フロイトがとりあげたことですから、どのようにフロイトが考えていたのかとか、フロイトの有名な症例とともに知っていて当然なことです。

心理臨床大事典には出ています。

用語正答率 17/25=68%

用語 No.19,20,21 も見ておいてください。

(論述)

DSM-5 の時代になって久しいわけですから、わたしたちの臨床心理学第5回のプリントテキストも DSM-5 改訂版という風書き換えました。それが配布されていると思いますが、万一、改訂前のテキストが配布されているのなら申し出てください。DSM-5 の改訂は様々な精神疾患に関連して修正は多岐にわたっていますので、ふるいテキストや市販本を読むときも、注意して読む必要があります。面倒ですが、DSM-IVは過去の話なのだとはっきり認識してください。

臨床心理学 第5回

穴埋め

17/25=68%

- 1・抑圧 ×消失 2・外的 ×現実 3・ヒステリー性 ×精神 4・不安 5・パニック
6・社交○ 7・強迫 8・身体 9・第一次 10・虚偽 11・許病 12・広場
13・強迫 14・愛着 ×分離 15・全般不安 ×心気 16・身体醜形 17・無食欲
18・シフネオス 19・性格タイプ別 ×A型 20・転換 ×抑圧 21・転換性 ×身体
22・解離 23・ジエネ△ ジャネ 24・記憶 25・同一

論述

転換性障害とは、アメリカ精神医学会のDSM-IVでは、既知の精神疾患や身体疾患では説明できず、症状の発症や悪化と関連する心理的要因をもつ随意運動や感覚機能についての、麻痺、盲、聾、知覚異常、痙攣などの神経症状を示す状態を転換性障害という。症状はしばしば突然起こり、発症はストレスに満ちた出来事が関連する。生涯に1度しか発症しない場合もあるが、繰り返し発症する場合もある。入院した場合、ほとんどの患者は2週間以内に症状が改善するが、約20～25%は1年以内に再発し、症状が慢性化することがある。転換性障害は、青年期または成人期初期に発症する傾向があるが、どの年齢でも起こりうるものである。女性の方が頻度が多く、孤立性の転換症状は、転換性障害や身体化障害の基準を完全に満たさないことがある。

説明は適切ですが、これからの時代に、DSM-IV (2013.に改訂済み) を引用しても不適切な感じがしますので、DSM-5 を見てください。

練習テスト(第5回)答案用紙		専門科目(臨床心理学)	
大学院臨床心理コース		第5回	
(得点)			
1	消失	16	身体醜形(障害) Body Dysmorphic Disorder
2	現実(現実不安) realistic anxiety	17	無食欲(神経性無食欲症) Anorexia Nervosa
3	精神(精神神経症) ? neurosis	18	シフネオス Sifneos, P.E.
4	不安(不安神経症) anxiety	19	A型(A型行動様式) A typed
5	パニック panic disorders	20	抑圧 repressed、repression
6	社会(社会恐怖) social phobia	21	身体(身体症状) somatized
7	強迫(強迫神経症) obsessive-compulsive	22	解離 dissociation
8	身体(身体化障害) Somatization Disorder	23	ジャネ Janet,P
9	第1次(疾病利得) primary gain from illness	24	記憶 memory
10	虚偽(虚偽性障害) Factitious Disorder	25	同一(同一性) identity
11	詐病 さびょう Malingering		
12	広場(広場恐怖) Agoraphobia		
13	強迫性(障害) Obsessive-compulsive Disorder		
14	分離不安(障害) Separation Anxiety Disorder		
15	心気(心気症) Hypochondriasis		

転換性障害について述べなさい。(400字)

(DSM-IVの時代は、答案も、次のようでした)

転換性障害は、DSM-IVでは身体表現性障害のカテゴリーに分類されている。その症状は神経疾患または他の一般身体疾患を示唆するような随意運動機能または感覚機能の障害である。症状が1つ以上あり、先立つ葛藤や他のストレス因子が存在し、心理的要因が関連していると判断される。もちろん虚偽性障害または詐病のように意図的に作り出されたり、ねつ造されたものではない。一般身体疾患または物質の直接的作用によって十分に明できない。著しい苦痛、社会的・職業的障害を起している。疼痛に限定されず、身体化障害の経過中でもなく、他の精神疾患ではうまく説明できないなどである。運動性の症状には、平衡の障害、麻痺、嚥下困難、“失声、尿閉。感覚性の症状に、触覚・痛覚の消失、盲、聾、幻覚、さらに発作・けいれんに及ぶこともあり、心的葛藤が抑圧され感覚や随意運動などの身体症状に転換して現われるというフロイトの仮説を支持すると考えられる。



DSM-5 (2013.) に対応して、解答を書き直してみました。

DSM-IVのほうが、わかりやすかったのですが、DSM-5の基準によれば、下記のようになります。改訂後の答案です。



転換性障害 Conversion Disorder は、DSM-5では「身体症状症および関連症群」(カテゴリー9) 表現性に分類され、機能性神経症状症とも呼ばれている。その症状(障害)は、随意運動または感覚機能の変化が起きるが、神経疾患・医学的疾患が適合しない臨床的所見があることで、他の精神疾患や医学疾患では説明されず、臨床的に意味のある苦痛・障害を引き起こしているなどである。脱力・麻痺、異常運動、嚥下症状、発語症状、発作。けいれん、知覚麻痺、感覚脱失を伴うなど病型は様々である。

心的葛藤が知覚運動系の機能の麻痺・亢進に置き換えられるというヒステリー性神経症におけるフロイトの提唱した「転換」の機制を支持すると考えられる。